

処理水受タンクのリプレース・増設計画

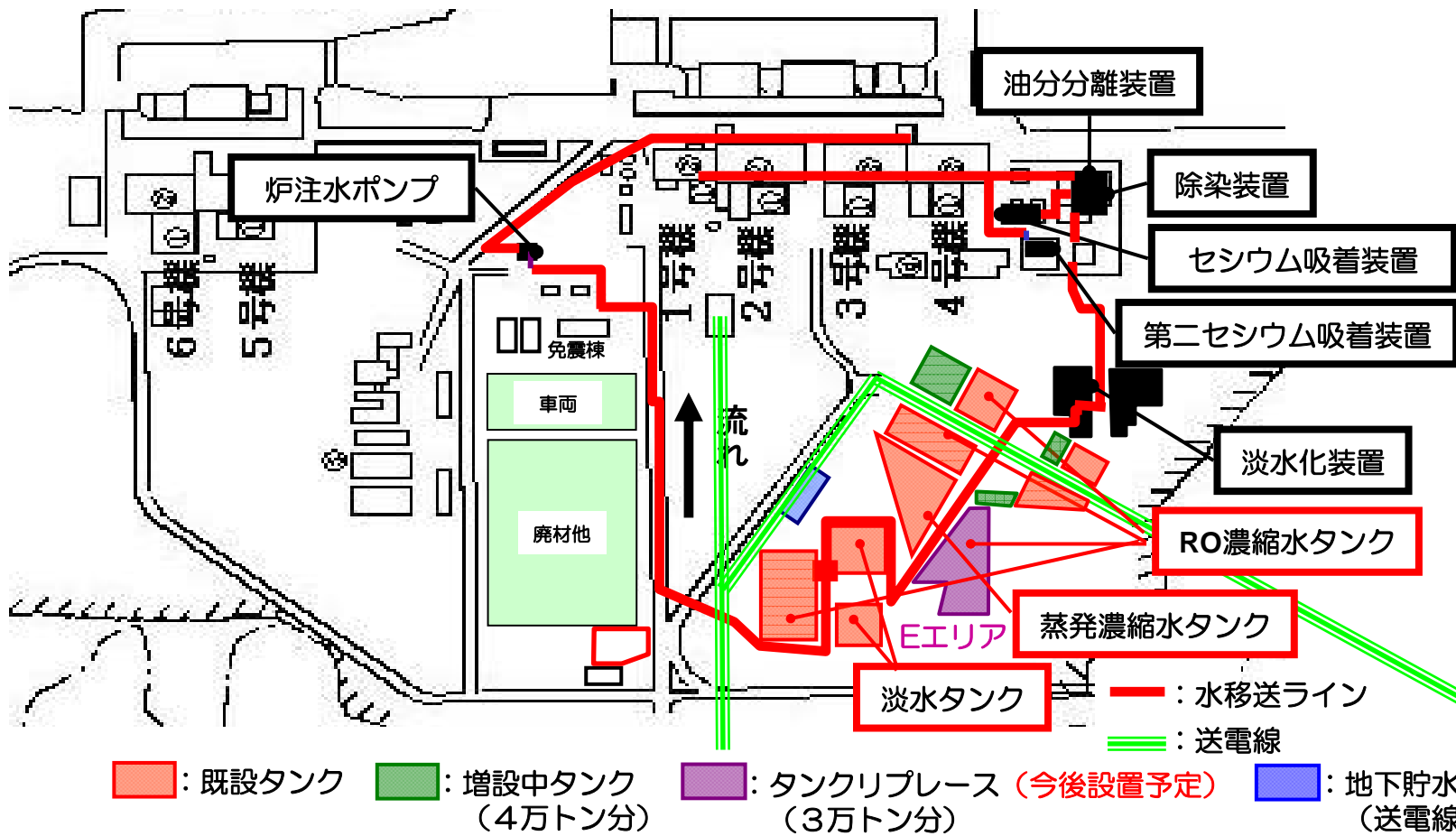
平成24年2月27日
東京電力株式会社



東京電力

現状の貯蔵タンク設置状況

- 水処理により発生した淡水、廃液貯蔵量は約11.5万トン(2月17日現在)
- 貯蔵用タンクとして約16.5万トンを設置済み
- 更なる貯蔵用タンクとして4万トンを増設中(4月上旬完成予定)



鋼製角形タンク
(淡水、RO廃液)



鋼製丸型タンク
(淡水、RO廃液)

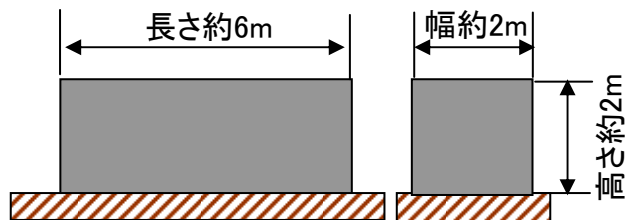


鋼製横置きタンク
(蒸発濃縮水タンク)

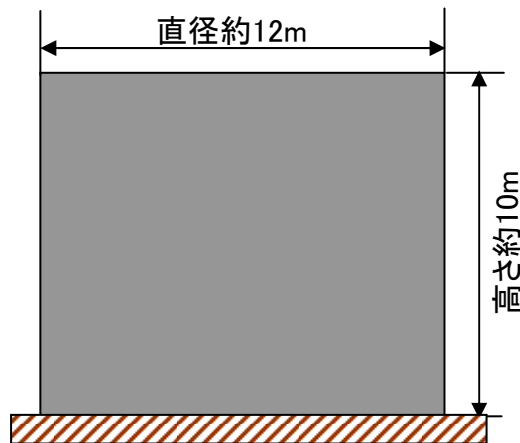
1~4号機 貯蔵タンク配置図

貯蔵タンク増設における課題

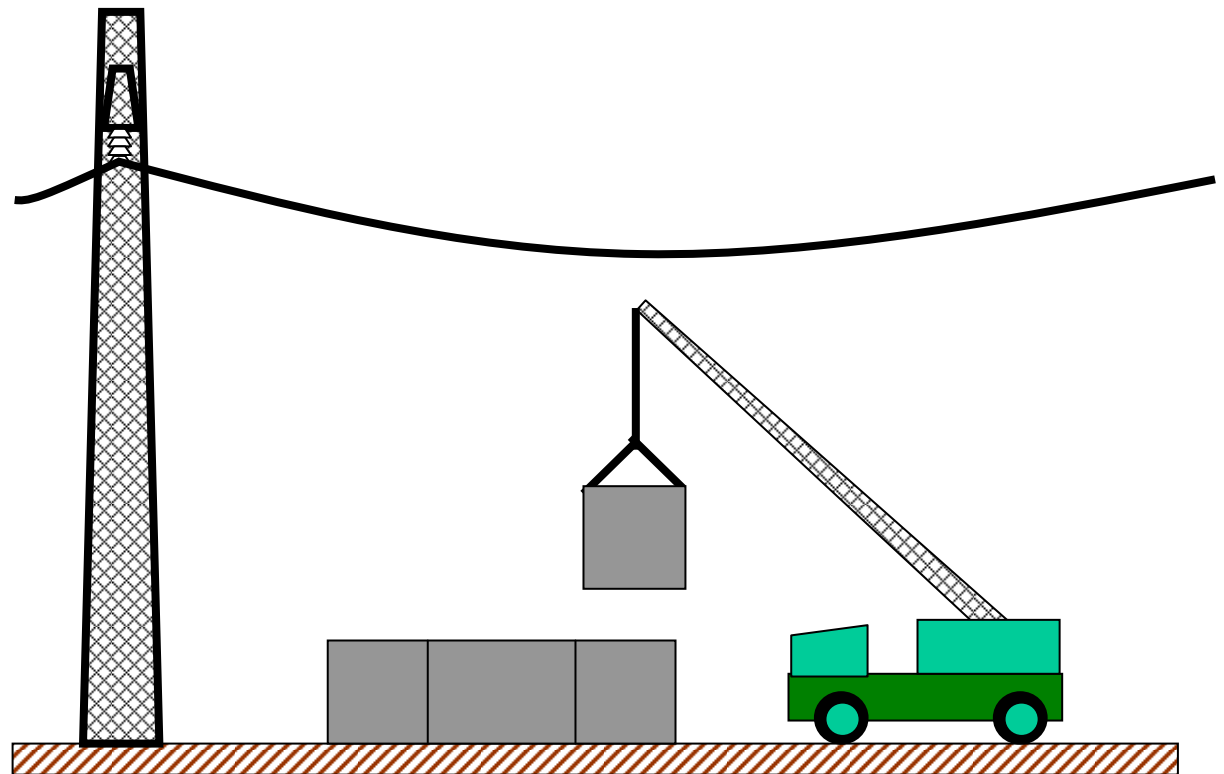
- 現状のタンク設置エリアではほとんど空きスペースがない状況(送電線下、地盤耐力が低いところは空きスペース有り)。空いているスペースについては、がれきや伐採木置き場として利用予定がある他、斜面の上部近傍であり重量物であるタンク設置には不適切。
- 鋼製角型タンク(既設)は小型(16~42トン)でタンクの土地の利用率が低い(鋼製丸型タンク:1000トン)
- 鋼製丸型タンクは設置時に大型クレーンを必要とするため、送電線下では感電事故の危険があり設置できない



鋼製角形タンク(16トン)



鋼製丸型タンク(1000トン)



貯蔵タンクの更なる設置方策(1)

RO濃縮水貯蔵に使用している鋼製角形タンク(小型)はEエリアの敷地利用率が悪いことから、大型鋼製丸形タンクにリプレースを行い貯蔵量の増加・確保を行う(約22,000トンの増量)

既設のEエリアタンク

(16トン~42トンの鋼製角形タンク×295基)
合計容量：8,000トン



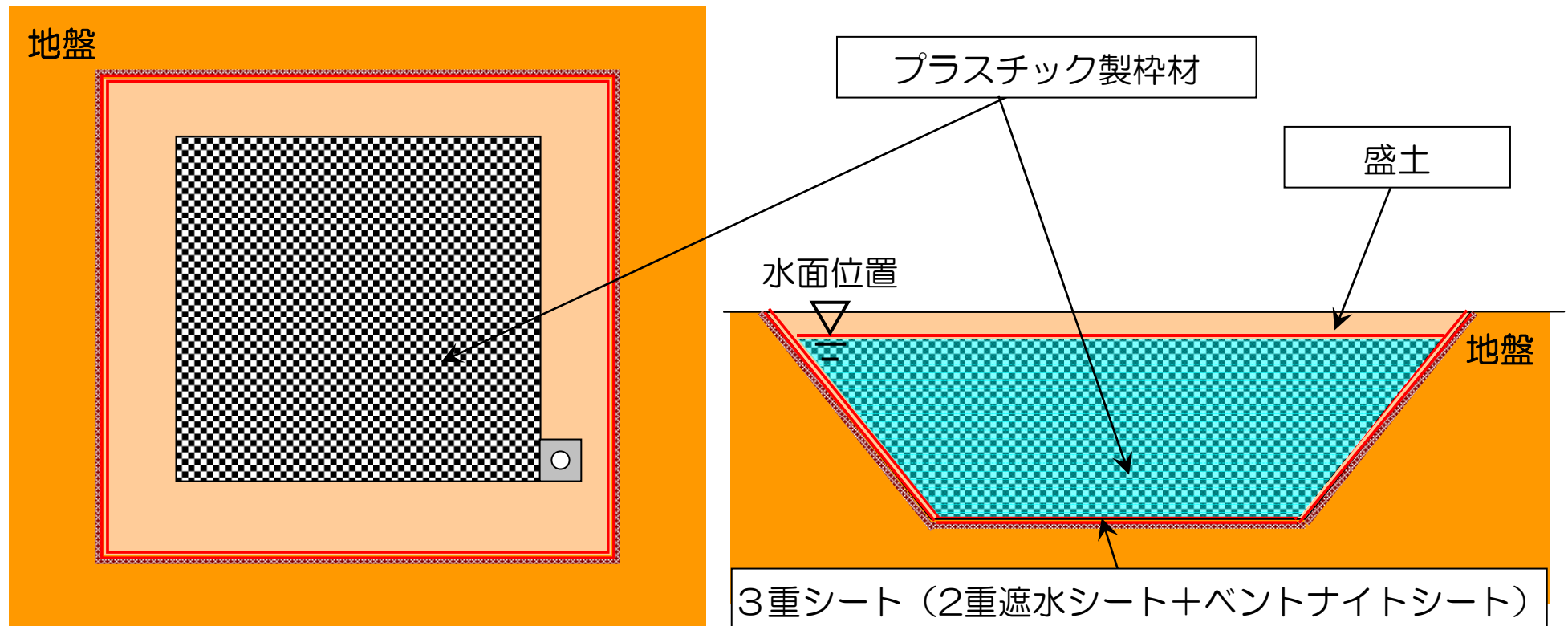
リプレース後 (イメージ)

(1,000トンの地上大型鋼製丸形タンク×30基)
合計容量：30,000トン



貯蔵タンクの更なる設置方策(2)

- 送電線下や地盤条件が悪く地上大型鋼製タンクが設置できないスペースに、地下貯水槽を設置(クレーン不要)
- 地下貯水槽は地盤を掘削し3重シートで止水施工し、内部にプラスチック製枠材を設置し水を貯蔵(洪水調整池としての使用実績多数有り)
- 地下貯水槽はプラスチック製枠材を組み合わせることで敷地形状(縦×横)に合わせて設置可能であり、また、上部(盛土)に車両、資機材等の仮置きも可能



平面図

断面図

今後の予定

1. 鋼製角型タンクのリプレース(Eエリア)

■鋼製角型タンクに貯蔵されている約6,000トンのRO廃液を既設又は増設中の鋼製丸型タンクに移送

■Eエリア内の敷地整備実施後、鋼製丸型タンクを順次設置予定

2. 地下貯水槽

■地下貯水槽については、水張り試験の結果を踏まえ、順次計画

	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
<Eエリア>																														
水抜き・撤去																														
敷地整備																														
タンク設置																														
<地下貯水槽>																														
掘削																														
貯水槽設置																														
水張り試験																														